

産学官連携インフラメンテナンス実務者フォーラム 開催結果

- ◆平成31年2月6日と7日の2日間、インフラメンテナンス国民会議九州フォーラムと九州地方整備局の共催により、産学官が連携してインフラメンテナンスを推進するため、若手技術者を対象に「産学官連携インフラメンテナンス実務者フォーラム」を開催。
- ◆民間企業、九州大学、地方自治体、整備局から約30人が参加し、橋梁点検や広報の重要性に関する講義や橋梁実モデルを活用した演習を行うとともに、それぞれが抱える課題・役割、連携方策等についてグループ討議により意見交換を行いました。
- ◆参加者からは、立場の異なるメンバーでの議論や人のつながりを評価する一方で、テーマの設定や実施時期などについて改善意見も出されました。今後も、九州のインフラを支える産学官の若い技術者の連携の場として、継続していくこととしています。

【開催概要】

- 〈共催〉インフラメンテナンス国民会議九州フォーラム、九州地方整備局
〈日時〉平成31年2月6日(水)～7日(木)
〈会場〉2月6日：九州地方整備局 10階会議室
2月7日：九州地方整備局 九州技術事務所 研修棟
〈参加者〉29名(民間企業等10名、大学3名、地方自治体8名、国8名)

1日目

- 〈開会挨拶〉九州地方整備局 伊勢田 敏 局長
〈講義〉
①インフラの現状について
(整備局企画部 堀 康雄 事業調整官)
②伝える努力～技術と広報は維持管理時代の両輪
(一社)ツタワルドボク 片山 英資 代表理事 会長)
③インフラにおける学の役割
(長崎大学 松田 浩 副学長)
④グループ討議(整備局 柳田 誠二 地方事業評価管理官)
産学官連携によるインフラメンテナンスのしくみづくり



伊勢田局長



松田副学長



片山会長



講義の様子



グループ討議

2日目

- ①橋梁メンテナンスの状況 (九州地方整備局 浅井 博海 道路保全企画官)
- ②橋梁実モデルを活用した点検技術の習得<実技>
(九州技術事務所 野尻 浩人 総括技術情報管理官)
- ③AI技術を活用した橋梁点検 (山口大学 中村 秀明 教授)



中村教授



講義の様子



橋梁実モデルでの演習

主なアンケート結果

- それぞれ立場の違う人達の声が聞いて良かった。産学官の連携の必要性を感じた。
- 伝える努力が必要、広報の重要性と難しさを学べた。
- グループ討議のテーマは、立場を問わず自由な発想が生まれやすいように工夫した方が良い。
- 九技での「橋梁実モデル」を使った議論は参考になった。実際の橋梁を見に行くのも良い。